

# 地域医療連携だより

H27.4  
第34号



**兵庫医科大学病院**

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
TEL.0798-45-6111(大代表)  
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp>



地域医療機関の先生方へ：**新年度のご挨拶**

## 世界最高水準の技術と施設で地域に貢献



副院長（手術センター・教育研修体制担当）  
心臓血管外科 診療部長 宮本 裕治

平成 25 年春に、新しく急性医療総合センターが稼働し始め、手術センターも飛躍的に改善されました。総手術室数は 14 部屋であり以前と同じですが、その設備は全く異なります。空調・照明（無影灯など）・清潔度が最新のものとなり、専従看護師 53 名・臨床工学技士 6 名と事務職員 4 名が在職しています。カンファレンス室・会議室・ラウンジ（食堂）などから見おろす武庫川の景色はすばらしくアメニティも充実して

おり、職員に憩いのひとときを与えてくれます。

この手術センターのトピックスとしては、ハイブリッド手術室と手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）の導入です。ハイブリッド手術室では、放射線科のカテーテル造影室と同レベルの画像撮影が、清潔クリーン度の高い手術室で可能となっています。現在は主に心臓血管外科と脳神経外科が使用して、造影検査や CT 撮影を繰り返しながら最先端の低侵襲手術を行っております。ロボットは、現在は主に泌尿器科が前立腺手術に使用しており、今後、他科も使用する予定です。手術センター内全ての部屋で最新型の設備が備えられ、ハイブリッド手術やロボット手術が行われており、世界のどの手術室にも引けを取らないものとなっております。

当然ながら各診療科の手術レベルは高く、予定手術だけで夕方 5 時の時点で、平均 6-8 列の並列手術が行われているのが日常です。その結果、年間手術数は漸増しており、平成 25 年度に



ハイブリッド手術室

初めて10000例を突破しました。平成26年度にはさらに増加しております。しかし、手術センターでは決して手術数増加を第一目標としているわけではありません。手術に関係するもの全員が、最高水準の手術を安全に、かつ、やりがいを持って行うことを目標としております。その結果として、手術数は自然に増加するものと考えております。地域と密接な連携を取りながら世界最高水準の手術で地域に貢献することを目標にこれからも努力しますので何卒よろしくお願ひします。



ダ・ヴィンチ

## 抗血栓薬・BP薬を処方中の抜歯について

歯科口腔外科 診療部長 岸本 裕 充



高齢者は循環器疾患や骨粗鬆症に罹患している頻度が高く、その治療目的で抗血栓薬やビスホスホネート(BP薬)が処方されます。これらは、抜歯に際し問題となることがあります。

以前は抗血栓薬を中止・減量して抜歯を行うこともありましたが、最近では血栓・塞栓を起こさないよう、抗血栓薬を継続したまま抜歯するのが望ましいとされています。当科でも原則として抗血栓薬を継続下で抜歯を行い、術後出血のリスクが高い時や、患者の希望を考慮して短期

入院をおすすめすることもあります。

近年、BP薬などによる薬剤誘発性顎骨壊死(MRONJ)の患者さんが増加しています(写真)。当科も参加したMRONJの調査では、がんの骨転移でBP薬を使用している患者さんよりも骨粗鬆症の患者の方が多くことが明らかになり、これまでの対応を見直す必要があります。MRONJの発症率は低く、BP薬を休薬しても確実に発症を予防することはできません。また、MRONJの治療法も確立されつつあります。そこで当科では、抗血栓薬と同様に、基礎疾患の悪化を引き起こさないよう、原則としてBP薬を休薬せずに抜歯を行っています。



薬剤関連顎骨壊死

特定機能病院における歯科口腔外科として、当科では一般的な歯科治療は他科に入院中の患者に対する応急処置のみとしています。抗血栓薬やBP薬を使用中でも、リスクが低い一般的な歯科治療は「かかりつけ歯科医」でお願いして、抜歯などのリスクの高い治療のみを当科で行うという連携を推進していますのでご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

### 主な経口ビスホスホネート薬

一般名	アレンドロン酸		リセドロロン酸		ミノドロロン酸	
販売名	フォサマック	ボナロン	ベネット	アクトネル	ボノテオ	リカルボン

## 診療部長からのご挨拶

### 内科 冠疾患科 診療部長 石原 正 治



冠疾患内科の診療部長（主任教授）の石原正治です。私はこれまで急性心筋梗塞を中心とする循環器急性医療の第一線で診療に従事し、前任地の国立循環器病研究センター冠疾患科部長を経て、昨年 8 月より兵庫医科大学に着任しました。

冠疾患内科では狭心症や急性心筋梗塞などの冠動脈疾患を中心に、大動脈解離や重症下肢動脈硬化症などの血管疾患に加え、心不全などの循環器救急患者の診療に取り組んでいます。平成 25 年に開設された急性医療総合センターには 8 床の CCU と IVR センターがあり、最新の設備の整った施設のもと、熱意あふれるスタッフとともに夜間・休日を問わず 24 時間体制で対応しています。

緊急患者さん以外にも、例えば狭心症に対する冠動脈インターベンションでは最新の画像診断法を駆使するとともに、心臓血管外科とも協同して、適切な適応判断のもと安全かつ高度な医療を実践するよう心がけています。

実際の診療において冠疾患内科は循環器内科と垣根なく一体となって取り組んでいます。これからも阪神・丹波地区の地域医療の充実に努めて参りますので、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



### 総合診療科 診療部長 新 村 健



この度、総合診療科主任教授兼総合内科診療部長に就任させていただきました。私はこれまで慶應義塾大学医学部内科において、高齢者を中心とした総合診療、老年医学教育、基礎的研究に携わって参りました。

当科が担うべき主な役割は、次代を担う総合診療医の育成と大学病院の入り口である総合診療センターでの診療業務です。少ないスタッフとの船出となりましたため、残念ながら現時点では、学内外の先生方のすべてのご要望には応えることができない状況にあります。現在、当科では入院治療が必要な患者さんの診療は行っておりません。継続的な生活習慣病管理も原則行っていません。そのような中、特定の診療科に限定できない病態を呈する患者さん、診断や治療に難渋する患者さん、集学的な検索・診療が必要な患者さんに対しまして、スタッフが一丸となって最善の診療を行いますよう努力しております。どうぞ日常診療でお困りの際は、総合診療センター宛にお気軽に患者さんをご紹介ください。その際は外来混雑のため、できるだけ地域医療・総合相談センター経由でご紹介いただきたく存じます。最後に、当科の立ち上げを温かく見守って頂きます様、先生方をお願い申し上げます。

## 診療科紹介

## 形成外科

形成外科 診療部長 垣淵 正男



## ■ 特色

兵庫医科大学病院形成外科は、特定機能病院として高度の専門性を必要とする疾患の治療にあたると同時に、地域医療における拠点病院として一般的な形成外科疾患も幅広く診療しております。

母斑（あざ）および血管腫などに対応するためのレーザー機器も整備されており、ケロイドに対する放射線治療も放射線治療科と連携して行っております。

頭頸部再建や乳房再建に3Dプリンターを用いた術前シミュレーションやモデルサージャリーを行っております。

難治性潰瘍に対する多血小板血漿（PRP）を用いた先進治療も行っております。

## ■ 診療実績

顔面骨折、唇裂、口蓋裂、小耳症、埋没耳、頭蓋変形、多指症、合指症、母斑（ほくろ、赤あざ、茶あざ、太田母斑）、血管腫、リンパ管腫、臍ヘルニア（でべそ）、眼瞼下垂、熱傷（やけど）皮膚・皮下の腫瘍（良性・悪性）などが診療の対象となります。

阪神地域の中核施設として大阪府および兵庫県全域から多数の紹介患者を受け入れております。



## ■ スタッフ紹介

役職	医師名	専門分野
主任教授 / 診療部長	垣淵 正男	形成外科一般、眼瞼下垂、顔面骨折、顔面神経麻痺、外鼻変形
教授 / 診療副部長	西本 聡	形成外科一般、口唇口蓋裂、多指症・合指症、血管腫、リンパ管腫
准教授 / 医局長	河合建一郎	形成外科一般、眼瞼・眼窩腫瘍、癬痕・ケロイド、褥瘡・難治性潰瘍
講師 / 副局長	藤原 敏宏	形成外科一般、皮膚腫瘍、熱傷、下肢静脈瘤、手の外傷
助教 / 病棟医長	曾束 洋平	形成外科一般、頭頸部再建、母斑（あざ）、耳介変形、
助教	藤田 和敏	形成外科一般、乳房再建、臍ヘルニア、リンパ浮腫

## ■ 地域医療機関の先生方へ

顔面、四肢、体幹および体表の様々な疾患を扱っておりますが、それぞれの疾患の専門家が揃っております。また、他の診療科とも密接に連携して治療にあたっておりますので、皆様がお困りのどのような疾患にも対応させていただきます。お気軽にご相談、ご紹介いただければ幸いです。

## 病棟 / 部門紹介

## 薬 剤 部

薬剤部 部長 木村 健

兵庫医科大学病院薬剤部は患者さんに安全かつ効果的な薬物療法を提供するため、調剤製剤部門・臨床薬剤部門・注射薬部門・薬剤情報管理部門に約80名の薬剤師を配置し、内外用入院調剤、一般・特殊製剤、TPN・化学療法注射薬の混合調製、一般注射薬の混合調製、病棟活動、薬剤管理指導、医薬品の購入・供給・品質管理、医薬品情報の収集・提供など、各部門がそれぞれ重要な役割を担っています。

また、チーム医療の中でその職能を発揮できる臨床薬剤師の育成に力をいれており、各医療チームに薬剤師を配置しています。今後も各領域における専門薬剤師の育成に努め、患者さんに信頼され、医療スタッフから評価される薬剤部を目指しています。

## ■ 地域医療機関の先生方へ

- 退院時にはお薬手帳などを用いて退院時の服薬指導を充実させています。
- すべての入院患者において薬剤師が持参薬をチェックし速やかに主治医に報告しています。
- 病薬連携として地域の保険薬局との連携を深める取り組みを実施しています。
- お薬のことなど気軽にご相談下さい。